

学校法人 弘徳学園

中長期計画

期間 : 令和2年度～令和7年度

●理念

建学の精神である「教育の目的は、人に愛される人、人に信頼される人、人に尊敬される人の育成にある」を実現する

●目標

- I 実践的教育による学生の育成
- II 質の高い研究成果の社会的還元
- III 教育資源による地域貢献、企業貢献及び国際貢献
- IV 教育・研究活動を維持する環境の整備

●基本方針

- I-1 (1) 教育の付加価値向上
- I-2 (2) キャリア教育の充実
- II-1 (3) 特色ある研究によるプレゼンスアップ
- III-1 (4) 地域の知的・実践的拠点として発信力向上
- III-2 (5) グローバル人材の育成
- IV-1 (6) 効果的な広報活動による入学志願者の増加
- IV-2 (7) 財政基盤の安定化とガバナンスの強化

●主要対策

1-1 教育力の向上

1-2 教育効果の可視化

2-1 社会人力の向上

2-2 専門職への就職率向上

3-1 外部資金による研究の充実

3-2 研究成果の向上

4-1 教育・研究の地域への発信

4-2 自治体、企業等との連携強化

5-1 語学力の向上

5-2 国際交流の推進・強化

6-1 広報活動の質向上

6-2 入試制度改革

7-1 収入増加と管理経費抑制

7-2 組織改革と基幹人材育成

姫路大学

中長期計画

○個別対策管理シート

I 基本方針

I-1 教育の付加価値向上

II 主要対策

1-1 教育力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
教員の教育・研究業績の向上により○合教員の養成	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> 研究科担当教員の資格基準を定め教員の選考を実施する 学部教員の教育・研究業績の向上を図り○合教員を確保する
看護学研究科①							
本年度は、前期・後期課程とも○合教員を確保できているが、教員の年齢が高いため3年後の博士後期課程完成年度には○合教員の確保							
必修科目への少人数授業の導入	R2	R3	R4	R5			講義・演習ともに、複数クラスにし、効果の検証に向けて計画する
看護学部①							
学生数が多いため、効果的なグループワーク、学生の授業への集中が困難							

【教育の付加価値向上】

<教育力の向上>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
現状の課題							令和2年度成果
多様な教育方法の導入	R2	R3	R4	R5			<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、効果的な教育方法の検討をする(アクティブラーニングなどの教育方法の検討・導入) ・看護の科目ごとに、学習習慣を身につける手段としての小テスト、レポート提出などを頻回に実施し、結果を評価し、学生に返却するサイクルを作る ・小グループでの学習機会を多くし、学生の発言機会を増やす方法等を検討する
<ul style="list-style-type: none"> ・学生も参加できるような双方向授業を検討 ・自分で考え、自己の考えを表現できる学生を育成 							
実習施設とのユニフィケーションの構築	R2	R3	R4	R5			<ul style="list-style-type: none"> ・ユニフィケーションとして、実習施設である地域病院職員を教員として採用し、看護学士教育の経験を積ませる ・教員を一定期間病院に派遣し、臨床の理解と看護の向上を図る
実習施設の不足、看護教員の確保困難、教育経験の不足、実習指導者との協働時間の確保が困難							
看護系大学協議会および日本看護協会等の公的機関が開催する教育力up、教員の質向上の研修に対して、教員の計画的研修参加	R2	R3	R4	R5			臨地実習にかかわる学内外のFD研修に教員を派遣し、成果を学内で発表する
<ul style="list-style-type: none"> ・直接臨地実習指導を行う准教授以下の教員の教育力向上のためのFD研修の実施 ・研修会などへの積極的な派遣 							

【教育の付加価値向上】

<教育力の向上>

中長期計画	工程表							令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
現状の課題	担当部局							令和2年度成果
教育課程の見直し	R2	R3	R4	R5				<ul style="list-style-type: none"> ・文科省および厚労省が提案する新カリキュラムに向けて、基礎看護教育課程の見直しと準備を行う ・教育内容の積み上げ、特に実習では一貫性のある教育(看護過程および技術の評価)が行われているかどうかの検討を行う
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程検討委員会では、継続的に学生が学ぶ意欲をもてる科目となっているか、看護師取得のための専門的な科目が揃っているか、学生の理解度に応じた単位数になっているか、科目配置(進度)は適切であるか等の検討 ・各領域の実習内容の確認を行い、継続的、積み上げ式の実習形態となっているか、教育課程全科目の内容及びマトリックスに関する検討 								
進級規程の見直し	R2	R3						進級規程の見直し・改正を実施する
看護学部⑥								
<ul style="list-style-type: none"> ・2年次の成績評価で、3年次に進級が不可となり、休学する学生が多いため学習意欲の継続が課題 ・旧カリ4年生には、実習と講義で2重履修せざるを得ない学生がいるため、現行の進級規程が効果的な学修効果となっているのかを検証し、よりよい方法を検討 								
大きく変化する教育現場の実状に対応した実践的教育の実現	R2	R3	R4	R5				「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」等の改訂に対応したカリキュラムの検討を行うとともに、実践的教育のさらなる充実を目指して、教育方法の見直しを行う
教育学部①								
「幼稚園教育要領」の改訂に伴う幼稚園教職課程の「領域に関する専門事項」の5領域化や「小学校学習指導要領」の改訂による「外国語」の導入など、時代の変化に対応したカリキュラムの検討								

【教育の付加価値向上】

<教育力の向上>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
高い指導力を身に付けた人材を育成するための アクティブ・ラーニングの実現	R2	R3	R4	R5			アクティブ・ラーニングを実現させるために効果的なシラバス内容の検討を行う
	教育学部②						
アクティブ・ラーニングを実現させるために効果的なシラバス内容及びク ラスサイズの検討							

○個別対策管理シート

I 基本方針

I-1 教育の付加価値向上

II 主要対策

1-2 教育効果の可視化

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
研究指導體制の充実	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> 研究指導體制及び論文審査方法について検討評価する 年複数回の中間発表会を開催し、質の高い修士論文作成に向けて支援する 博士後期課程の完成年度に向け、認可申請に基づいた運用を実施しながら、課程全体の評価を行っていく
<ul style="list-style-type: none"> 博士前期課程は完成年度を迎え、授業科目や論文審査方法などの見直しを実施したことにより、継続的な評価が必要 博士後期課程は今年度開設したばかりであるので研究指導體制を整え充実に向けた運用が必要 							
卒業前の看護技術の安全性チェック	R2	R3	R4	R5	R6	R7	卒業予定者全員を対象に、総合的な技術チェックを行う
看護学部①							
看護技術が安全に提供できるかを卒業前に確認することは社会への責任として重要であるが、現教育課程ではそれらができていないため、シミュレータを用いた技術チェックの実施が必要							

【教育の付加価値向上】

<教育効果の可視化>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
国家試験合格率・就職率の向上	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時に既習学力試験を実施する ・1年次から年2回国家試験模試の受験の義務化を行い、学習進度に合わせた学習の強化および試験を実施する
看護学部②							
AO、指定校制入試での入学生が多く、試験に不慣れな学生がいるため、1年次より模擬試験などを活用し試験回数を増やすことが必要							
効果的な臨地実習の体験	R2	R3					<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「基礎ゼミ」科目で、態度にかかわる授業内容を充実させ、自己の態度が相手に与える影響を学修する ・臨地実習のための科目先修条件を定めた規定の見直しを行う
看護学部③							
<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習の課題は、態度が不適切な学生がおり、また経済的に困難な学生等の中には、私生活と学業の計画が不十分で、実習中の学習不足になることへの対策を立てることが必要 ・2年次の基礎実習では専門科目のみが先修条件とされているために、疾患の理解ができていない学生が実習し、効果的な実習となっていないのが現状 							
授業におけるポートフォリオの活用、授業評価の実施	R2	R3	R4	R5			<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックの方法を検討する ・ポートフォリオの活用方法を検討する
教育学部①							
<ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業評価は行われているが、学生の参加度およびフィードバックなどに課題 ・授業におけるポートフォリオの活用も一部見られるが、効果的な活用が課題 							

【教育の付加価値向上】

<教育効果の可視化>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
現状の課題							令和2年度成果
卒業時の質問紙調査、卒業研究のプレゼンテーションの実施	R2	R3	R4	R5			<ul style="list-style-type: none"> 卒業時の質問紙調査を検討する 卒業研究のプレゼンテーションの在り方を検討する
	教育学部②						
4年間の学修成果を可視化するために卒業時の質問紙調査の実施、卒業研究のプレゼンテーションなどの在り方など検討する必要							
ルーブリック評価の導入	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリックに関する教員との意見交換を行う 作成方法検討項目の検討をする 次年度以降完成に向けた作成依頼をする
	通信教育事務部①						
<ul style="list-style-type: none"> 教員の理解と協力 学生への周知方法 ルーブリック評価表の作成方法 先行する豊岡短大との整合性 							
GPAの導入	R2	R3	R4				<ul style="list-style-type: none"> 検討項目を検討する GPA値 修得単位数ごとに評価 卒業等の時期で評価 GPA値の分布状況の検討 導入にかかる経費の算出
	通信教育事務部②						
通信教育学生の学修進行に則した評価方法の検討 <ul style="list-style-type: none"> 成績不振者に対する個別学習指導 進級判定または卒業判定 授業科目履修者に求められる成績水準の設定 教員間、授業科目間の成績評価基準の平準化 							

【教育の付加価値向上】

<教育効果の可視化>

中長期計画	工程表							令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部局	
現状の課題								令和2年度成果
シラバス作成要領の変更	R2	R3						<ul style="list-style-type: none"> ・教員との意見交換をする ・シラバス様式の決定をする ・作成依頼をする
	通信教育事務部③							
<ul style="list-style-type: none"> ・準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ・授業における学習の到達目標及び成績評価の方法・基準 ・卒業認定・学位授与の方針と当該科目の関連 ・当該科目の教育課程内の位置づけや水準を表す数字や記号 								
授業評価アンケートの実施		R3	R4	R5	R6	R7		
	通信教育事務部④							
<ul style="list-style-type: none"> ・本校スクーリング以外のスクーリングへの対応 ・印刷教材科目への評価方法 ・評価後の分析・検討並びに授業改善を制度的取り組み 								

【教育の付加価値向上】

<教育効果の可視化>

○個別対策管理シート

I 基本方針

I-2 キャリア教育の充実

II 主要対策

2-1 社会人力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
考え抜く力、チームで働く力、前に踏み出す力としての3つの能力の向上	R2	R3	R4				教育課程検討委員会の中で、これらの向上を目指した具体的な働きかけを検討し、2年次、3年次で行われる臨地実習へとつなぐ授業を展開する
	看護学部①						
<ul style="list-style-type: none"> ・経済産業省のいう人生100年時代の社会人基礎力としての3つの能力の中でも、特に実習においても必要とされる考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)、前に踏み出す力(アクション)の不足 ・自己の課題を発見し、計画的に方法を立案し、主体的に実行する力の不足 							
社会人力向上の取り組み(全学部共通)	R2	R3	R4				<ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じて求められるマナー力を検討する ・各学年に対してマナー講座を実施する ・マナー講座受講後のアンケート調査を実施する
	教学部①						
実習や就職活動や就職後等で活かせるマナーの基礎力から応用力までを取得							

【キャリア教育の充実】

<社会人力の向上>

○個別対策管理シート

I 基本方針

I-2 キャリア教育の充実

II 主要対策

2-2 専門職への就職率向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							令和2年度成果
全学的なキャリア教育の導入(全学部共通)	R2	R3	R4				<ul style="list-style-type: none"> 1,2年向きのキャリア教育の具体的な導入内容を検討する 全学的なキャリア教育を実施する
教学部①							
<ul style="list-style-type: none"> 入学後からのキャリア教育実施 全学的なキャリア教育の導入により、高い就職率の維持やキャリア意識を向上 							
キャリア支援を行うスタッフの強化(全学部共通)	R2	R3	R4				<ul style="list-style-type: none"> キャリア支援を行う職員が能力向上のための研修を受講する 研修を受けたスタッフが学生のキャリア支援を行う
教学部②							
<ul style="list-style-type: none"> キャリア支援を行うための職員の能力向上 キャリアコンサルタントの資格取得 							

○個別対策管理シート

I 基本方針

II-1 特色ある研究によるプレゼンスアップ

II 主要対策

1-1 外部資金による研究の充実

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
外部資金獲得のための個人研究費における傾斜配分化	R2	R3	R4				他大学調査と制度の概略を策定する
総務部①							
個人研究費は、業績及び研究成果に関わらず一律的な予算配分を実施しており、研究成果及び研究意欲との連動性の実現							
外部資金の獲得に向けた支援体制の整備	R2	R3	R4	R5	R6		<ul style="list-style-type: none"> ・現在申請していない教員の不申請理由の把握する ・科研に関する新たな学内説明会（各種書類作成）、講演会（外部講師）などの策定する
総務部②							
<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金制度に関する説明会を年1回実施しているが、申請に当たって課題となる事項の整理が出来ていないため、申請への意欲を促したりする仕組みを構築することが必要 ・現状の申請数は、教員数の4分の1未満であり、申請を活発化することが必要 							

【特色ある研究によるプレゼンスアップ】

<外部資金による研究の充実>

○個別対策管理シート

I 基本方針

II-1 特色ある研究によるプレゼンスアップ

II 主要対策

1-2 研究成果の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
研究成果の向上	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の学会や学術誌などで研究成果を発表する ・外部資金の申請・獲得にむけ継続的に取り組む
	看護学研究科①						
大学院担当教員として各自の専門分野に関連する研究活動を継続的に実施、公表し、広く社会に還元することが必要							
科学研究費・外部資金の採択された研究のホームページでの発信	R2	R3	R4	R5	R6	R7	外部資金の採択された研究及び学内の獲得的研究資金等に関するホームページでの公開を行う
	看護学部①						
ホームページによる研究成果の発信や申請したすべての研究に対する学内での研究資金の検証やそれに対する補助の検討							

【特色ある研究によるプレゼンスアップ】

<研究成果の向上>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
現状の課題							令和2年度成果
研究成果を学会だけでなく、積極的な地域への還元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公民館、老人会、婦人会を通して、地域に出向いて成果を公表する ・大学主催の研究に関する報告会を開催する
	看護学部②						
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民へは研究協力を依頼し、十分な成果を上げているが、地域住民への研究成果の還元が不十分 ・住民が抱えている健康問題や課題に関して聴講できる場の確保 							
研究成果の向上のために、大学ホームページや学術情報リポジトリの活用とともに、研究活動の成果の社会への公表	R2	R3	R4				研究成果の向上を目指して、大学ホームページや学術情報リポジトリの整備を行うとともに、学術交流会やシンポジウムなどの開催を検討する
	教育学部①						
研究活動の成果の社会への公表と還元が不十分							

【特色ある研究によるプレゼンスアップ】

<研究成果の向上>

○個別対策管理シート

I 基本方針

III-1 地域の知的・実践的拠点として発信力向上

II 主要対策

1-1 教育・研究の地域への発信

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
地域の人々へ健康教育実践研究センターの周知	R2	R3					<ul style="list-style-type: none"> 研究センターは開設後間もないため、大学ホームページに研究センターの紹介や内容のページをつくり、センターの場所、相談手続き、実践プログラム内容などを地域の人々に分かりやすいように提示する 研究センター便り等の作成や配布を通して、相談活動や公開講座などセンターで行うプログラムを地域の人々へ知らせる
センターの存在や実施プログラム内容を地域の人々への周知							
地域の人々への支援の実践	R2	R3	R4	R5	R6	R7	地域の人々への支援ニーズ調査や効果の検証を通して、より効果的なプログラムを開発・実践する
ニーズを把握し、効果的な地域支援プログラムの実践開発							
研究センター①							
研究センター②							

【地域の知的・実践的拠点として発信力向上】

<教育・研究の地域への発信>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
大学から地域への発信	R2	R3	R4	R5			公開講座、公開講演会などの実施、センター年報等の作成を通して、大学における教育・研究の成果を地域への発信する
	研究センター③						
大学における教育・研究の成果を地域への発信							
大学から社会への発信		R3	R4	R5	R6	R7	
	研究センター④						
姫路大学ブックレット(小冊子)の作成・出版、姫路大学健康教育学会(仮称)の設立などを通して、広く社会へ発信							
学術機関機関リポジトリの整備	R2	R3	R4	R5			過年度に遡り、紀要執筆者に許諾をもとめ、公開する
	図書館①						
本年度作成の紀要からは、原則として投稿された研究は姫路大学学術機関リポジトリにおいて公開することとなっているが、過年度に作成された本学紀要に投稿されている研究については、著作権の観点より本人の許諾を得ることが必要							

【地域の知的・実践的拠点として発信力向上】

<教育・研究の地域への発信>

○個別対策管理シート

I 基本方針

Ⅲ-1 地域の知的・実践的拠点として発信力向上

II 主要対策

1-2 自治体、企業等との連携強化

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
地域の医療機関や教育機関との連携や研究のための基礎固め	R2	R3	R4	R5	R6	R7	地域の医療機関や教育機関と連携した支援について方法を検討し、実践を試みる (地域における、子育て相談・教育相談・発達や障害の相談・保健相談・高齢者相談などの役割の一部を担う、又、連携研究の可能性について検討する)
研究センター①							
地域の医療機関や教育機関と連携し、地域貢献のあり方の検討							
兵庫県看護協会との連携	R2	R3	R4	R5	R6	R7	兵庫県看護協会と協議しながら、「まちの保健室」開催に向けた準備を行い、令和3年度開設を実現できるように進めていく
研究センター②							
兵庫県看護協会と連携して「まちの保健室」をセンターの事業として実施し、地域住民の相談や健康支援の場として利用してもらうよう計画実践							

【地域の知的・実践的拠点として発信力向上】

<自治体、企業等との連携強化>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
医療や教育関連の企業との連携研究の計画			R4	R5			
	研究センター③						
<ul style="list-style-type: none"> ・企業との連携により開発可能な地域の人々のニーズの調査、研究への参加の可能性や同意方法などについて検討 ・関連企業の選定、企業の担当者への説明や予算化などの可能性の検討 							
医療や教育関連の企業との連携研究の実践				R5	R6	R7	
	研究センター④						
地域の高齢者や障害児者、子どもなどを対象に、行政や企業と連携した福祉用具・支援用具・教育アイテムの開発を、地域の人々と連携しながら実践(基礎データの収集、支援器具の開発、効果の分析など)							
(仮称)畜産研究所構想計画	R2	R3	R4	R5	R6		<ul style="list-style-type: none"> ・理事会・評議員会へ提案する ・兵庫県・香美町・JA・企業との協力体制を構築する ・研究用牧場用地を選定する ・産学連携協定(案)作成に向けて協議する
	第2事業開発部①						
<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県・香美町との連携 ・畜産企業との産学連携 							

【地域の知的・実践的拠点として発信力向上】

<自治体、企業等との連携強化>

○個別対策管理シート

I 基本方針

Ⅲ-2 グローバル人材の育成

II 主要対策

2-1 語学力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
英書講読の授業を充実	R2	R3	R4	R5	R6	R7	海外での学会発表を目指して、語学力の向上を図る授業の展開を行う
看護学研究科①							
現在は、看護学の英語で書かれた先行研究を読むことに焦点が置かれているが、海外での学会発表を目指すように、スピーキング力とライティング力の向上が必要							
海外での学会や海外研修への参加	R2	R3	R4	R5	R6	R7	海外研修への短期間参加や海外での学会発表を行う
看護学研究科②							
海外での学会発表や、研修への積極的な参加							

【グローバル人材の育成】

< 語学力の向上 >

中長期計画	工程表							令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題								令和2年度成果
語学授業の充実	R2	R3	R4	R5	R6	R7	看護学部①	科目の内容と科目間のつながりを可視化するために、1年間の学習ログ(学習記録)を整備し、各科目の授業内容及び各科目間の整合性を明確にする
語学の履修に関しては、必修英語4科目、選択英語・国際科目1科目の選択必修となっているが、それぞれの授業の整合性								
「選択科目・海外研修」の語学・看護プログラムの運用	R2	R3	R4	R5	R6	R7	看護学部②	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に科目として置いた海外研修を履修する機会を設け、英語で内容教科を学ぶ機会を与える ・語学と看護学、両方での学習に対するモチベーションを上げる
学生の英語学習に対するモチベーションを上げるため、内容教科を英語で学ぶ科目「海外研修」を開設・運用								
英語を中心とする外国語の語学力向上	R2	R3	R4	R5			教育学部①	国際性豊かな教育者およびグローバル人材として必要な語学力を身に付けるために効果的な外国語関連科目の編成及び講義内容を見直す
<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度施行新学習指導要領において教科「外国語」が小学校に導入されるが、外国語およびその指導に対する苦手意識 ・英語検定資格の取得、TOEIC等の評価点向上 								

【グローバル人材の育成】

< 語学力の向上 >

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
姫路大学ゲートウェイ(仮称)の発足・運用(全学部共通)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	語学教育を向上させるために特化した機関を設立
	教学部①						
<ul style="list-style-type: none"> ・語学教育を向上させるために特化した機関の未整備 ・授業外以外での語学教育の機会を提供 							

【グローバル人材の育成】

<語学力の向上>

○個別対策管理シート

I 基本方針

Ⅲ-2 グローバル人材の育成

II 主要対策

2-2 国際交流の推進・強化

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
海外の提携先大学への学生の送り出し	R2	R3	R4	R5	R6	R7	海外提携先大学へ学生を送り出し、プログラムに沿った研修を受ける
看護学研究科①							
提携先大学では、看護学の短期研修を予定しており、大学院生に、英語での研修を経験させ、英語学習へのモチベーション向上が必要							
提携先からの研究者の招聘や大学院生の短期研修の受け入れを実施	R2	R3	R4	R5	R6	R7	海外の提携大学との大学院生や教員間の交流を検討する
看護学研究科②							
提携大学では看護学生の短期研修の送り出しを予定しており、大学院生や教員間の交流を検討することが必要							

【グローバル人材の育成】

<国際交流の推進・強化>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
提携先大学で語学・看護学を学ぶ機会の充実 (語学力アップと連携)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	既に海外研修は科目化しており、海外提携先大学への学生の送り出しをする
	看護学部①						
海外において、語学及び看護学を学ぶ機会がない							
提携先からの研究者の招聘及び学生の受入	R2	R3	R4	R5	R6	R7	学内において、海外の大学の教員・学生を招聘し、外国の文化に触れる機会を設ける
	看護学部②						
<ul style="list-style-type: none"> ・学内において、海外に眼を向けさせる機会の不足 ・海外の事象に注意を向けさせるために、学生及び研究者の招聘 							
海外への留学及び海外からの留学生受入プログラム等の充実	R2	R3	R4	R5			海外への留学や海外からの留学生の受け入れ等のプログラムを計画する
	教育学部①						
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に導入される教科「外国語」に対する苦手意識 ・留学などの経験を有している学生が少ない 							

【グローバル人材の育成】

<国際交流の推進・強化>

○個別対策管理シート

I 基本方針

IV-1 効果的な広報活動による入学志願者の増加

II 主要対策

1-1 広報活動の質向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
志願者増加及び入学者の安定的確保	R2	R3	R4	R5			<ul style="list-style-type: none"> ・PR時期を考慮し戦略的な高校訪問を検討する ・18歳人口の減少に伴い兵庫県内だけではなく県外から志願者を獲得できるよう近畿、中四国地方にも高校訪問を行い情報を発信する ・地元の姫路市を中心にきめ細かく訪問し担当者との会話等を重視する中で、安定的な入学者確保につなげる
18歳人口が減少している中で両学部とも安定的な入学者確保が課題							
偏差値の向上	R2	R3	R4	R5			<ul style="list-style-type: none"> ・志願者数を増やすためオープンキャンパス以外に出前授業を充実する ・偏差値が高い生徒を確保するために、出口の部分である各試験の合格率を上げる
偏差値の高い学生を受け入れていくことが課題							

【効果的な広報活動による入学志願者の増加】

<広報活動の質向上>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
現状の課題	担当部局						令和2年度成果
入学者の安定的確保	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> ・実習関連施設で働く看護職者や本学の卒業生に対して大学院教育への関心を高めるために入試要項等の配布や訪問を実施する ・学部生を対象に各自のキャリア設計にむけ大学院教育の啓発に努める
	看護学研究科①						
博士前期課程の志願者は、昨年度より漸次的に減少傾向にあり、安定的な定員確保の対策が必要							

【効果的な広報活動による入学志願者の増加】

<広報活動の質向上>

○個別対策管理シート

I 基本方針

IV-1 効果的な広報活動による入学志願者の増加

II 主要対策

1-2 入試制度 改革

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
学力の三要素を含んだ入試の構築への見直し	R2	R3	R4	R5			次年度から入試制度が新しくなることから、高校生及び高校教員等に対して、分かりやすい丁寧な説明を検討する
入学センター①							
学力の三要素を満たした入学試験の実施							

【効果的な広報活動による入学志願者の増加】

< 入試制度改革 >

○個別対策管理シート

I 基本方針

IV-2 財政基盤の安定化とガバナンスの強化

II 主要対策

2-1 収入増加と管理経費抑制

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							令和2年度成果
中長期資金計画の策定とそれに基づく予算配分	R2	R3	R4	R5	R6		<ul style="list-style-type: none"> 過去の決算を分析する 中長期資金計画の情報を共有する 資金計画を策定する上で必要となる各種計画を収集する
総務部①							
部局の枠を超えて、学校単位や学校法人単位での協力体制の下、計画策定することが必要							
施設の有効的活用と施設貸与の整備・料金見直し	R2						問題点の洗い出しと規程を改定する
総務部②							
<ul style="list-style-type: none"> 施設利用料は、この10年間変更していないが、利用希望者は増加しており、料金体系の見直しが必要 有償貸出と無償貸出の基準が曖昧であり、明確な基準が未整備 							

【財政基盤の安定化とガバナンスの強化】

<収入増加と管理経費抑制>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
補助金獲得	R2	R3	R4	R5	R6	R7	私立大学改革総合支援事業のいずれの項目を目指すかを検討する
総務部③							
私立大学改革総合支援事業に取り組むことで大学自体の質等が上がり、補助金も獲得できるが、現状取組が未実施							
収入増加を目的とした学生サービスの向上	R2	R3	R4	R5			<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス決済導入に向けた情報収集を行う ・対応可能なベンダーの情報収集、システム内容の確認、システムのシナリオ構築計画、初期費用、ランニングコストについて検討する ・決済ツール多様化の有用性確認を目的とした利用者アンケート調査を検討する ・導入に伴う費用対効果を検討する
経理・財務部①							
経理業務の効率を下げず、学生サービスを向上させ、付加価値を高める、間接的な収入増加策を模索							
収入増加及び管理経費抑制を目的とした財務関係比率に関する指標の策定	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの財務関係比率から見た経営判断指数の構築を検討する ・単年度ベースの目標数値の構築を検討する ・目標達成年限と目標数値の構築を検討する
経理・財務部②							
<ul style="list-style-type: none"> ・経営状態を表す経営指標のプラスへの転換が必要 ・単年度ごとの細かな数値目標が必要 ・全学的な取り組みによる目標設定の必要性 ・その指標を検討しうる経営判断指数等の資料を構築 							

【財政基盤の安定化とガバナンスの強化】

<収入増加と管理経費抑制>

中長期計画	工程表							令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題								令和2年度成果
入学前教育の実施方法見直し(全学部共通)	R2	R3	R4					入学前教育の実施方法を検討する
教学部①								
<p>本学は全額負担で入学前の全学生へ業者による入学前教育を実施しているが、フォローアップ課題の提出については意識の差が大きく、入学前教育のフォローアップに対して実態が伴わない学生の存在</p>								
高学年国家試験対策模試の実施方法見直し(看護学部)	R2	R3	R4					国家試験対策模試の実施方法を検討する
教学部②								
<p>全員を対象に国家試験対策模試を実施しているが、意識の低い学生が模試を受験していない状況</p>								
ipadデジタルテキストの導入検討(全学部共通)	R2	R3	R4	R5	R6	R7		ipadデジタルテキストを導入した場合の費用シュミレーションをする
教学部③								
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が支払うテキストの費用が高く、学生は実習に大量のテキストを持ち込んでいるが物量や劣化や重量が大きな負担 ・授業での配布プリントの印刷経費が高額となり経費削減必要 								

【財政基盤の安定化とガバナンスの強化】

<収入増加と管理経費抑制>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
現状の課題							令和2年度成果
奨学金制度の見直し	R2	R3	R4	R5			奨学金制度の見直しを検討する
入学センター①							
各奨学金制度の精査を行い制度の見直しを実施							
教職課程の入学定員の削減	R2	R3					<ul style="list-style-type: none"> ・入学定員数の実勢に即した定員の検討をする ・新コースの検討をする
通信教育事務部①							
入学生数の実勢にあった入学定員の削減							

【財政基盤の安定化とガバナンスの強化】

<収入増加と管理経費抑制>

○個別対策管理シート

I 基本方針

IV-2 財政基盤の安定化とガバナンスの強化

II 主要対策

2-2 組織改革と基幹人材育成

中長期計画	工程表							令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	担当部局	
現状の課題								令和2年度成果
業務のマニュアル化	R2	R3	R4	R5	R6			業務の棚卸による業務内容、実施時期を可視化する
総務部①								
<ul style="list-style-type: none"> 各部局とも業務担当者の業務経験が浅い 業務の属人化傾向 								
SD研修の推進	R2	R3	R4	R5	R6	R7		<ul style="list-style-type: none"> 現状の研修会開催状況の把握と各部局への更なる研修会実施を依頼する 部局横断型の研修会を実施する
総務部②								
<ul style="list-style-type: none"> 簡易的な業務のルーティンワークが、業務全体に占める割合が高く、専門的知識を要する業務への対応が不十分 専門的知識を習得するような機会が少ない 								

【財政基盤の安定化とガバナンスの強化】

<組織改革と基幹人材育成>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
人事評価制度の改善	R2	R3	R4	R5			<ul style="list-style-type: none"> ・評価観点を整理する ・評価者の評価基準を整理する ・評価者教育を検討する
総務部③							
<ul style="list-style-type: none"> ・人事評価制度を導入しているが、人事評価が職員のモチベーション向上等に繋げること ・人事評価者の評価観点を統一すること 							

豊岡短期大学

中長期計画

○個別対策管理シート

I 基本方針

I-1 教育の付加価値向上

II 主要対策

1-1 教育力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
教員の教育力の向上	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルの実施と検証を継続し、今後の教育活動に反映できる体制をつくる 教員間での公開授業の実施による自己研鑽の場を確保する
こども学科①							
<ul style="list-style-type: none"> 教科ごとにPDCAサイクルを作成し、教育活動の成果と今度の教育活動のあり方を常にチェックできる体制の強化 FD研修を通して、教員の教育力向上に向けた公開授業の実施による自己研鑽の場の確保を行い、実践力を身につけることのできる機会の確保 							
外部の評価を取り入れた教育活動の効果の検証	R2	R3	R4	R5	R6		<ul style="list-style-type: none"> 実習先(園)との懇談会を実施する 実習学生に関する実習状況等のアンケートを実施する 卒業生の就労状況アンケートを実施する
こども学科②							
<ul style="list-style-type: none"> 実習先(園)との懇談会を継続的に実施し、実践的な知識、技能の習得状況の確認と課題の共有 卒業生の就労状況の外部評価(アンケート)を行い、学生指導やカリキュラム編成に活用 							

【教育の付加価値向上】

<教育力の向上>

○個別対策管理シート

I 基本方針

I-1 教育の付加価値向上

II 主要対策

1-2 教育効果の可視化

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
保育者に求められている養成科目等の学習成果の可視化と学びの質の保証	R2	R3	R4	R5	R6		学生に分かりやすい、カリキュラムマップとカリキュラムツリーを作成する
	こども学科①						
学習成果の達成と各授業科目の関連性が不明瞭							
GPA制度の導入と評価の数値化に伴う学習指導への活用	R2	R3	R4	R5	R6		GPA制度の導入と数値化基準の検討を行い、本学の学習指導に取り入れる
	こども学科②						
GPA制度の導入により評価の数値化							

【教育の付加価値向上】

<教育効果の可視化>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
現状の課題							令和2年度成果
GPAの導入	R2	R3	R4				卒業等の時期で評価
	通信教育事務部①						
<ul style="list-style-type: none"> ・検討項目を検討する ・GPA値 ・修得単位数ごとに評価 ・GPA値の分布状況の検討 ・導入にかかる経費の算出 							
通信教育学生の学修進行に則した評価方法の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・成績不振者に対する個別学習指導 ・進級判定または卒業判定 ・授業科目履修者に求められる成績水準の設定 ・教員間、授業科目間の成績評価基準の平準化 							
シラバス作成要領の変更	R2	R3					卒業等の時期で評価
	通信教育事務部②						
<ul style="list-style-type: none"> ・教員との意見交換を実施する ・シラバス様式の決定をする ・作成依頼をする 							
<ul style="list-style-type: none"> ・準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間 ・課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ・授業における学習の到達目標及び成績評価の方法・基準 ・卒業認定・学位授与の方針と当該科目の関連 ・当該科目の教育課程内の位置づけや水準を表す数字や記号 							
授業評価アンケートの実施		R3	R4	R5	R6	R7	卒業等の時期で評価
	通信教育事務部⑥						
<ul style="list-style-type: none"> ・本校スクーリング以外のスクーリングへの対応 ・印刷教材科目への評価方法 ・評価後の分析・検討並びに授業改善を制度的取り組み 							

【教育の付加価値向上】

<教育効果の可視化>

○個別対策管理シート

I 基本方針

I-2 キャリア教育の充実

II 主要対策

2-1 社会人力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
キャリアアップ I・II・IIIの出席率向上	R2	R3	R4	R5			<ul style="list-style-type: none"> ガイダンス、オリエンテーションにおける学生への説明の充実を図る 学生の関心が高まる授業内容の検討をする
教務学生部①							
<ul style="list-style-type: none"> 科目の重要性に関する学生理解の促進 授業内容の見直し 							
学生指導委員会、進路指導委員会の活動内容の見直し	R2	R3	R4	R5	R6		<ul style="list-style-type: none"> 各委員会のPDCAに社会人力向上に関する内容を加えることを検討する
教務学生部②							
各委員会の活動内容の再検討							

【キャリア教育の充実】

<社会人力の向上>

○個別対策管理シート

I 基本方針

I-2 キャリア教育の充実

II 主要対策

2-2 専門職への就職率向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
専門職への期待値を向上させる委員会活動	R2	R3	R4	R5	R6		・進路指導委員会、地域交流委員会、公開講座委員会及び学生指導委員会の合議並びに活動内容の見直しを図る
教務学生部①							
各委員会の連携した活動							

○個別対策管理シート

I 基本方針

II-1 特色ある研究によるプレゼンスアップ

II 主要対策

1-1 外部資金による研究の充実

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							令和2年度成果
科研費を中心とした外部研究資金の獲得額増加	R2	R3	R4	R5	R6		<ul style="list-style-type: none"> ・科研費個別説明会を開催する ・姫路大学の職員と連携し、獲得並びに運用ノウハウ構築に着手する
総務部①							
科研費をはじめとした外部研究資金獲得並びに運用ノウハウの蓄積が必要							

【特色ある研究によるプレゼンスアップ】

<外部資金による研究の充実>

○個別対策管理シート

I 基本方針

II-1 特色ある研究によるプレゼンスアップ

II 主要対策

1-2 研究成果の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
研究紀要の質向上	R2	R3	R4	R5	R6	R7	研究紀要の査読規定を充実発展できるように検証する
こども学科①							
<ul style="list-style-type: none"> 査読体制の充実 研究紀要への投稿促進 							
科研費等学内外研究助成金獲得に関わる研究奨励と支援		R3	R4	R5	R6	R7	
こども学科②							
科研費等学内外研究助成金獲得に関する研究体制が不十分							

【特色ある研究によるプレゼンスアップ】

<研究成果の向上>

○個別対策管理シート

I 基本方針

Ⅲ-1 地域の知的・実践的拠点として発信力向上

II 主要対策

1-1 教育・研究の地域への発信

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
豊岡地域での認知度の向上	R2	R3	R4	R5	R6	R7	地域の子育て支援目的としている「こどもフェスタ」を内容、実施時期、実施場所等を再検討する
こども学科①							
<ul style="list-style-type: none"> 豊岡キャンパスの地域での認知度向上 学生が1年間を通じて研究・企画した「こどもフェスタ」の対象年齢の幅が広いこと、実施内容及び時間の見直し 							
姫路地域での認知度の向上	R2	R3	R4	R5	R6	R7	地域の子育て支援目的としている「こどもフェスタ」の実施を検討する
こども学科②							
<ul style="list-style-type: none"> 姫路キャンパスの地域での認知度向上 地域での子育て講座等による地域への発信 							

【地域の知的・実践的拠点として発信力向上】

<教育・研究の地域への発信>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
公開講座の内容見直し	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座「パソコン講座」の内容の見直し、実施する ・保育、幼児教育の高等機関としての講座内容を検討し、開設する
こども学科③							
<ul style="list-style-type: none"> ・「パソコン講座」として、ワード、エクセルコースを開講しているが、受講生のパソコン習熟度の差、時代のニーズに合った内容の検討が必要 ・福祉・保育関係に役立つ講座が未開設 							
OPACの機能の利用するために(現在オフライン)、蔵書の目録の遡及作業の継続及び解消のための方向性について	R2	R3	R4	R5	R6		蔵書の目録の遡及作業を継続する
図書館①							
現在登録されている蔵書データ(1冊ごとの書誌事項)の見直し							

【地域の知的・実践的拠点として発信力向上】

<教育・研究の地域への発信>

○個別対策管理シート

I 基本方針

Ⅲ-1 地域の知的・実践的拠点として発信力向上

II 主要対策

1-2 自治体、企業等との連携強化

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
地域の高齢者大学との連携強化	R2	R3	R4	R5	R6	R7	高齢者と学生が保育や福祉の学びの一端を共に経験し、学び合うことで、地域の異世代間交流の活性化を目指し、教育と研究成果が地域に還元されるよう取り組む
こども学科①							
<ul style="list-style-type: none"> ・教育・研究活動の地域への還元 ・地域の福祉や保育の問題を異世代間で双方向的に学ぶ機会 							
実習先や就職先と情報共有を通じた保育者養成の連携強化	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の就職先に対して、就労状況等のアンケートを実施する ・実習先や就職先との懇談会の実施時期や実施回数、実施内容などを検討する
こども学科②							
地域の福祉・保育業界との連携強化							

【地域の知的・実践的拠点として発信力向上】

<自治体、企業等との連携強化>

○個別対策管理シート

I 基本方針

Ⅲ-2 グローバル人材の育成

II 主要対策

2-1 語学力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
国際化する人材養成を行うため国語力・語学力の向上	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語コミュニケーション」授業の充実を図る ・福祉・保育現場での利用者の国際化に対応できるような実践的なコミュニケーション力をつけるため、国際交流事業などの充実を図る
	こども学科①						
国際的な社会で対応できる語学力の向上							

【グローバル人材の育成】

< 語学力の向上 >

○個別対策管理シート

I 基本方針

Ⅲ-2 グローバル人材の育成

II 主要対策

2-2 国際交流の推進・強化

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
国際社会に適応しうる感性の育成と異文化を理解しうる力の養成	R2	R3	R4	R5	R6	R7	「国際交流事業」等を実施し、異文化に触れる機会を設ける
	こども学科①						
国際社会に適応できるようなグローバルな視点を持ち、福祉や保育現場における多様性に対応できる高い教養を身につけた学生の育成							

【グローバル人材の育成】

<国際交流の推進・強化>

○個別対策管理シート

I 基本方針

IV-1 効果的な広報活動による入学志願者の増加

II 主要対策

1-1 広報活動の質向上

中長期計画	工程表							令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
担当部局								
現状の課題								令和2年度成果
姫路キャンパスでの受験生の増加を図るため、姫路大学との連携による編入制度の充実(併願制度の検討・姫路キャンパスの特色づくり)	R2	R3	R4					<ul style="list-style-type: none"> ・姫路大学と広報を共にできる部門の連携を整理し、お互いの強みを活かせる体制を作る ・高等学校の進路担当者に存在を知ってもらえるよう高校ガイダンスの件数を増やす
	入学センター①							
<ul style="list-style-type: none"> ・姫路大学との併願制度・編入制度の在り方を検討 ・姫路近隣での姫路キャンパスの認知向上 								
タイムリーな受験情報の提供・魅力発信できる広報物(パンフ、チラシ、ポスター、ホームページ)・インターネット出願のシステム構築	R2	R3						<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットやその他の広報物についてコンペ方式を導入し、学内の各部署の意見を反映した印刷物、ホームページを作成する ・インターネット出願の導入に向け、姫路大学と連携し、システムの在り方を検討する
	入学センター④							
<ul style="list-style-type: none"> ・広報戦略において積極的な情報提供 ・保育に興味をもてる情報発信 ・インターネット出願ができる環境整備 								

【効果的な広報活動による入学志願者の増加】

< 広報活動の質向上 >

○個別対策管理シート

I 基本方針

IV-1 効果的な広報活動による入学志願者の増加

II 主要対策

1-2 入試制度 改革

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							令和2年度成果
入試のあり方の見直し (入試区分の呼称変更・入試実施時期の変更)	R2	R3					<ul style="list-style-type: none"> 入試実施方法の変更に関して本学教職員が正しく理解・説明できるように学内での研修会を実施する マニュアルを作成し、高等学校側に正しく情報を伝えるよう教員による訪問回数を増やし説明を行う ホームページやSNSによる入試情報の積極的な配信を行う
	入学センター①						
<ul style="list-style-type: none"> ホームページ等を活用した積極的な情報提供 学内関係者向けにも会議や研修を実施・入試区分の呼称変更により、受験者及び教職員に混乱が生じる可能性への対応 							
学力の3つの要素を取り入れた入試方法の導入	R2	R3	R4				<ul style="list-style-type: none"> 学力の3つの要素を取り入れた入試内容を検討する 総合型選抜の面接相談の在り方を見直し、さらなる改善案を模索する
	入学センター②						
<ul style="list-style-type: none"> 入試時期が秋以降に変更されオープンキャンパスの実施時期から受験までの間の期間への対応 これまでの面接相談に代わる形で、保育体験などのアクティブラーニングを取り入れた学びの機会 							

【効果的な広報活動による入学志願者の増加】

< 入試制度改革 >

○個別対策管理シート

I 基本方針

IV-2 財政基盤の安定化とガバナンスの強化

II 主要対策

2-1 収入増加と管理経費抑制

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							令和2年度成果
特別補助の獲得	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> ・私立大学等経常費補助金説明会後、総務課による全学的な学内研修会を実施する ・共通の知識をもち、現状を改善し補助金を獲得できるよう教学部門とも連携して進めていく
総務部①							
<ul style="list-style-type: none"> ・全学的な情報共有 ・補助項目の精査 							
貸館事業の実施	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊岡短期大学校舎等の学外貸与に関する細則」の見直しを行う ・学外へ向け貸館事業を周知する
総務部②							
<ul style="list-style-type: none"> ・本学行事实施による他部署との調整 ・学外貸与に関する細則に規定する料金体系の見直しの検討 							

【財政基盤の安定化とガバナンスの強化】

<収入増加と管理経費抑制>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
現状の課題	担当部局						令和2年度成果
日常的な消耗品等に対する経費削減意識の徹底的な浸透	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> ・冗費削減の意識改革を実施する ・日常業務における消耗品等の経費の洗い出しを行う
	総務部③						
慣習となっている部分も多いため、意識の改革							
学生サービスの向上	R2	R3	R4	R5	R6		通学部対象:窓口収納方法を模索する ・券売機導入を含めた収納システムを検討する ・姫路キャンパスとの連携を含めたシステム内容を検討する ・運用方法等を構築する ・導入コスト、ランニングコスト及び費用対効果を検討する
	経理部①						
経理業務の効率を下げず、学生サービスを向上させ、付加価値を高める、間接的な収入増加策を模索							
豊岡キャンパス、姫路キャンパスにおいて実施される授業に関して、所属教員の移動の効率化	R2	R3	R4				2キャンパス制(2年目)の完成年度を迎え、実施に関する障害の有無の確認をする
	教務学生部①						
<ul style="list-style-type: none"> ・時間割の見直し ・教員貼り付けの見直し 							

【財政基盤の安定化とガバナンスの強化】

<収入増加と管理経費抑制>

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
姫路大学入学センターと連携による費用抑制	R2	R3					<ul style="list-style-type: none"> ・法人内で教職員が短大、姫路大学両方の広報ができるような情報共有の機会を持つ ・いくつかの高等学校には、合同で広報を行い、そのメリット、デメリットを検証する
入学センター①							
姫路大学との合同ガイダンスの未実施							

【財政基盤の安定化とガバナンスの強化】

<収入増加と管理経費抑制>

○個別対策管理シート

I 基本方針

IV-2 財政基盤の安定化とガバナンスの強化

II 主要対策

2-2 組織改革と基幹人材育成

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							令和2年度成果
業務のマニュアル化	R2	R3	R4	R5	R6		業務の棚卸による業務内容、実施時期を可視化する
総務部①							
<ul style="list-style-type: none"> 各部局とも業務担当者の業務経験が浅い 業務の属人化傾向 							
SD研修の推進	R2	R3	R4	R5	R6	R7	<ul style="list-style-type: none"> 現状の研修会開催状況の把握と各部局への更なる研修会実施を依頼する 部局横断型の研修会を実施する
総務部②							
<ul style="list-style-type: none"> 簡易的な業務のルーティンワークが、業務全体に占める割合が高く、専門的知識を要する業務への対応が不十分 専門的知識を習得するような機会が少ない 							

【財政基盤の安定化とガバナンスの強化】

<組織改革と基幹人材育成>

こうのとりの認定こども園

中長期計画

○個別対策管理シート

I 基本戦略

I-1 教育の付加価値向上

II 主要対策

1-1 教育力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
現状の課題							令和2年度成果
保育教諭の育成	R2	R3	R4	R5			<ul style="list-style-type: none"> ・若手の園内研修の充実をする ・自己点検後の面談実施によるモチベーションアップに努める ・全職員によるインクルーシブな保育教育の研究と実践を行う
このとり認定こども園①							
<ul style="list-style-type: none"> ・若手の離職問題 ・インクルーシブ教育保育の展開 							
教育・保育課程の見直し	R2	R3	R4	R5			<ul style="list-style-type: none"> ・教育保育内容の理解と短大実習要望のすり合わせをする ・全職員による教育保育の質の向上を模索する ・多様な研修、職員会に積極的に参加し実践を通して意見交換を行う
このとり認定こども園②							
<ul style="list-style-type: none"> ・実習生の育成 ・日常の教育保育業務と実習業務の問題 							

【教育の付加価値向上】

<教育力の向上>

○個別対策管理シート

I 基本戦略

I-1 教育の付加価値向上

II 主要対策

1-2 教育効果の可視化

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
現状の課題							令和2年度成果
ICTの導入		R3	R4	R5	R6		
このとり認定こども園①							
<ul style="list-style-type: none"> ・教育保育の専務作業の見直し ・ICT導入補助金、経済産業省IT導入補助金に対応 ・コンプライアンス遵守 							
公開保育の推進		R3	R4	R5	R6		
このとり認定こども園②							
地域の保育園、こども園、短大の教職員等との教育保育の展開の方法や意見をいただく場の設定							

【教育の付加価値向上】

<教育効果の可視化>

○個別対策管理シート

I 基本戦略

III-1 地域の知的・実践的拠点として発信力向上

II 主要対策

1-1 教育・研究の地域への発信

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
地域及び家庭の支援機関としてのアピール向上と充実		R3	R4	R5	R6		
	このとり認定こども園①						
<ul style="list-style-type: none"> ・一時預かり(めばえ)は、年度による利用者数の増減が顕著 ・親子教室(そよ風)は、定員に対して申込者が多数 ・親子教室(そよ風)の保育内容やメニューの見直し ・短大教員の継続的な子育て支援講座の実施 							

【地域の知的・実践的拠点として発信力向上】

<教育・研究の地域への発信>

○個別対策管理シート

I 基本戦略

Ⅲ-1 地域の知的・実践的拠点として発信力向上

II 主要対策

1-2 自治体、企業等との連携強化

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
園庭開放の拡充	R2	R3	R4				<ul style="list-style-type: none"> ・従来の七夕夏祭り・運動会・オープンスクール持ち方を再検討する ・子育て支援事業の充実と拡大を行うと共に利用しやすい方法を模索する
このとり認定こども園①							
地元との交流強化を目的として、こども園に期待されている事項への対応							
研修会の拡充				R5	R6	R7	
このとり認定こども園②							
<ul style="list-style-type: none"> ・但馬内の保育園こども園が参加できる研修の会場提供 ・短大教員との研修会、勉強会発足 							

【地域の知的・実践的拠点として発信力向上】

<自治体、企業等との連携強化>

○個別対策管理シート

I 基本戦略

III-2 グローバル人材の育成

II 主要対策

2-1 語学力の向上

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
バイリンガル教育の効果公表		R3	R4	R5			このとり認定こども園①
<ul style="list-style-type: none"> 園職員の英語力の向上 日本語の語彙力低下 							
外国出身者による国際交流を通じた語学力の向上	R2	R3	R4	R5			外国人講師による英語教育カリキュラム・指導の明確化を図る
							このとり認定こども園②
バイリンガル教育の実践記録の公表							

【グローバル人材の育成】

< 語学力の向上 >

○個別対策管理シート

I 基本戦略

III-2 グローバル人材の育成

II 主要対策

2-2 国際交流の推進・強化

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							
現状の課題							令和2年度成果
園児保護者及びバイリンガル教諭による文化紹介交流を通じた国際交流の推進							外国人保護者や英語講師による文化、生活習慣の紹介等により他国への興味関心を深める
文化交流・国際交流の機会増加							

【グローバル人材の育成】

<国際交流の推進・強化>

○個別対策管理シート

I 基本戦略

IV-2 財政基盤の安定化とガバナンスの強化

II 主要対策

2-1 収入増加と管理経費抑制

中長期計画	工程表						令和2年度計画
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
担当部局							令和2年度成果
現状の課題							
通園バスの運営方法見直し			R4	R5	R6	R7	このとり認定こども園①
<ul style="list-style-type: none"> ・年々少子化傾向が続きバス乗車人数の減少傾向 ・園バスの意義や地域親支援から見る貢献度の高さ ・利用保護者の意見把握 ・バス通園に憧れ、入園した子や期待をしている子の存在 							
園内関係職員の業務の仕分けと配分見直し	R2	R3	R4				<ul style="list-style-type: none"> ・清掃業者の業務内容を明確化すること及び必要時間を検討する ・仕事内容に応じた処遇改善費の配分によりモチベーションを高める
<ul style="list-style-type: none"> ・処遇改善費のモチベーション向上への連動 ・清掃業者への業務分担の明確化 							

【財政基盤の安定化とガバナンスの強化】

<収入増加と管理経費抑制>